

センセーショナルな発見

Eine sensationelle Entdeckung

Die Presse (05.01.1896)

現在ウィーンの科学界では、ヴェルツブルク大学のルートゲン教授^{†1}が行なった発見の報が大きなセンセーションを巻き起こしている。

関連する情報が正しいと証明されるなら、この正確な研究の独特な画期的成果は、物理学および医学の領域にめざましい結果をもたらすものである。

我々が知るところによれば……

ルートゲン教授は、非常に高度に排気したガラス管内を誘導電流が流れるクルックス管を使い、このガラス管が放出する光線によって、通常の写真乾板を使って写真を撮影した。この光線は、これまでその存在を知られておらず、目には全く見えないものである。

この光線は通常の光線と異なり、木、有機物、そして同じく不透過性の人体を透過する。これに対して、金属、骨は透過しない。閉鎖したフィルムカセットを使って昼光の下で撮影することができる。すなわち、本来ならば感光フィルムの前にあって、撮影前に取り除かなければならない木製のカバーをこの光は通過する。さらに被写体の前の木製の覆いも通過する。例えばルートゲン教授は、木箱に入った分銅を箱を開けずに撮影した。

写真には、分銅だけが写っており、フィルムカセットは写っていない。木製の箱の中にある金属物体を、箱を開けることなく撮影できるのである。

通常の光がガラスを通過するのと同じように、このクルックス管から放出される新発見の光は、木や人体の軟部を通過する。

最も驚くべきは、この方法で撮影された人間の手である。写真には手の骨が写っており、指には指輪が浮いたように写っている。手の軟部は見えない。

この画期的な発見のサンプル写真がウィーンの学界に回回り、当然のことながら驚愕を巻き起こしている。

以上がヴェルツブルク大学における発見について我々の知り得た簡単な情報である。おとぎ話かエープリルフールの冗談のように聞こえるが、これは真面目な学者たちに真剣に受け止められていることをあらためて強調しておく。

近い将来、研究室で徹底的に研究され、さらなる発展を見ることであろう。物理学者たちは、これまで光が通らなると考えられていた物質を、クルックス管から出て日光を通すガラスのように透過する、これまで知

られていなかった光の伝達について研究するであろう。

特殊な写真の専門家は、まもなく全身の全ての部位についてこの発見を適用し、実験を行ない、これを完成させ、実用化するであろう。新たな、非常に価値ある診断法への展望が開けると思われ、生物学者、医学者、特に外科医は、その実際的応用に大きな興味を持つであろう。

このようなセンセーショナルな発見を前にして、ジュール・ヴェルヌばりの未来幻想を描かずにはおられない。壁や人体を、あたかも水晶のように明るい鏡面ガラスのごとく通過して明るい陽光の輝きをもたらす新発見が確実であると聞くと、このような幻想も生き生きと迫ってくる。

この発見の写真による証拠が、真剣な批評家の目にもそのまま映るのであれば、疑念の余地も小さいものとなる。この新しい写真術が技術的に進歩して、軟部組織を透過する人間の手の写真だけでなく、骨全体を撮影することに成功すれば、骨外傷や骨疾患の診断における重要性をまずは証明できよう。

例えば医師は、患者に痛みを与える触診をせずに、複雑骨折の状態を正確に知ることができるであろう。外傷外科医は、弾丸や集榴弾の破片など異物の状態を、これまでよりずっと簡単に、痛みを伴うゾンデを使わずに診断できるであろう。非外傷性の骨疾患についても、写真の撮影に成功すれば、同じように診断や治療に有用であろう。

そしてさらに想像を膨らませると、このクルックス管から出る光線による技術を完成させ、人体の軟部組織を透過するだけでなく、さらに深部を写真に写すことができれば、数多くの他の種類の疾患の診断にも、骨と同じように比類無い役割を果たすであろう。

最初の前提が正しいものであれば、このような業績、ひとたび開かれた道の上の進歩は、可能性の範囲外にあるものではない。

これらはすべて過大な未来への幻想かもしれないことは認めよう。しかし、今世紀の初めに、孫の世代には空中を飛ぶ弾丸の画像を正確に捉えることができるだろうか^{†2}、電気装置によって海のかなたと会話できるであろうなどと言う人がいたら^{†3}、精神病院に収容されたかも知れないのである。新たな展望を開きうるヴェルツブルク大学の研究者のセンセーショナルな発見の今後について簡単に述べてみた。

【訳注】[†]

1. この記事ではレントゲンの名前が Routgen と誤記されており、このためしばらくの間、レントゲンはルートゲンと呼ばれていた。
2. 高速度撮影のことと思われる。高速度撮影は、1851年にイギリスの William Talbot が発明し、火花放電などを撮影した。
3. 1876年に Graham Bell が電話を発明したが、国際電話が実用化されたのは20世紀になってからで、大西洋をまたぐ初の通話は1927年とされる。